

2023 年 6 月 21 日

学校法人三幸学園
札幌医療秘書福祉専門学校
校長 中村 淳 殿

学校関係者評価委員会
委員長 笹田 直人

学校関係者評価委員会実施報告

2022 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 笹田 直人（社会福祉法人禎心会 常務理事）
- ② 高田 基秋（市立千歳市民病院 事務局 経営戦略室医事課 課長）
- ③ 濱田 朋里（社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 診療情報管理室 課長）
- ④ 薄井 智也（社会医療法人耳鼻咽喉科 麻生病院 医事課長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023 年 6 月 21 日（会場 札幌医療秘書福祉専門学校 本館 302 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校

自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 水尾 有菜

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笹田 直人

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」の下、医療・福祉分野の専門学校として「医療、福祉現場を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・福祉分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

重点目標

1) 生徒指導について

□ 業界理解

- ・毎授業内で業界情報を入れ込むように教員一同徹底し、授業内容がどのように現場で活用されるかイメージできるように学校全体で取り組んだ。
- ・インプットした内容をアウトプットする機会を実施。（研究発表会・シミュレーション大会）

□ 退学防止

- ・複数担任制度導入。
- ・スクールカウンセラー利用による、学習・精神面のフォローアップを強化した。
- ・業界に対する気持ちが薄れないよう卒業生からの講話機会を設けた

□ 企業連携

- ・学校にて就職説明会を実施する等、学校に足を運んでいただき、学生の様子を実際に見て頂く場を設けた。

2) 教職員に対して

□ 業界理解

業界理解勉強会を月 1 回程度実施。また、各種関連資格取得支援を行った。

□ 授業、生徒指導力向上

- ・新入教職員研修を実施。
- ・生徒が実施する授業満足度アンケート向上のための研修を実施した。
- ・教職員同士の授業見学や姉妹校含む授業アンケート上位者の「授業づくりのポイント」を知る機会を設けた。

3) 卒業生徒の繋がりについて

- ・実習ガイダンスや就職ガイダンス、行事のご来賓等で卒業生に協力してもらう場面を増やし、学生との繋がる場

を設けた。

② 学校関係者評価委員会コメント

・業界の現場のイメージをつけるのはとても難しい。例えば YouTube を見せる、何か独自性のものを学校で作る等今の学生に合うやり方を検討した方が良いが、時間もお金もかかる。現場から講師として来てもらって話すというのも時間的に難しい時もある。可視化してモーフィングすると学生からのリアクションも良い。ただどうしても医療業界に頼るところがあるので、シミュレーション大会等に来ている関係者に協力してもらい学生に親しみやすい動画を作るのはどうか。（薄井委員：医療秘書科、診療情報管理士科、介護福祉科について）

・学生達のリアクションはどうなのだろうか。例えば動画を観たいのか、そういったヒアリングはあるのか。受け手の意見を聴いてみないとわからないところが多いため、学生の声を聞くことが始めたい。（薄井委員：医療秘書科、診療情報管理士科、介護福祉科について）

・業界理解についてだが、当院では積極的に見学を実施している。土曜日の午前中などに、玄関から入りフロアまで案内、その中で患者様の雰囲気を見る。良い面だけでなく、生よりは死に近い業界のイメージまでを持たせて、全て回るようにしている。また管理士や業界の説明を、監督する側の職員と入職してまだ1年目の年齢の近い職員に依頼している。業界については説明しても限界があるので、動画または実際の現場の空気を肌で感じて欲しいというのは管理室として思っている。（濱田委員：医療秘書科、診療情報管理士科、介護福祉科について）

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

教職員に対し、教育理念・人材育成像などは、全体場で何度も確認しているため、浸透しているように感じる。生徒には年度初めの行事やHRで伝える工夫はしているが、日々の継続した発信・確認が必要である。また、コロナ禍もあり保護者にむけて直接的にビジョンを伝えることが難しく、オンデマンドで一方的な発信となってしまった。

② 今後の改善方策

1)生徒に向けて

・年度初めだけではなく「どのような人材が社会で求められるか」自分事として理解させる機会を創る。（未来デザインプログラム・業界理解/HR 授業内で実施）

2)保護者に向けて

・オープンキャンパス保護者会時に「学校理念・目的・育成人材像」についてお伝えし、賛同いただく。
・オンデマンド、オンラインで実施していた保護者会を見直し、対面で実施、参加できない方は書面でお渡しする等全員が一度は目を通す仕組みとする。

③ 特記事項

昨年に引き続き、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーから、育成人材像が明確化され、そのゴールのための教育課程を編成することができた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学力的にも学生に何か求めるのは難しい。（高田委員（医療秘書科、診療情報管理士科））
・8人に1人は発達障害と言われており、諦めない教育というのがびったりだと思う。自分で選んだ道なら、最後まで努力して単位を取ってもらいたい。（笹田委員（介護福祉科））
・学生に何か問題があっても、保護者は学校に預ければ何とかしてくれるという状況が多少はある。学生と保護者の意向が違うパターンもあると思う。結論あきらめない教育が必要。当院ではプリセプター式を取っており、また人に合わせて指導スピードは変えている。また診療情報管理士は資格ありきのため、ある意味フィルターがかかった上で働いてくれている。能力的には何もなくても伸びる子もいればゆっくり着実にという子もいる。こちら側も1年目は即戦力になるとは考えず、3年までは粘り強くいるという心構えでいる。学生のうちに育てきるとは思わず、現場と連携しながら進める必要がある。（濱田委員：医療秘書科、診療情報管理士について）

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システム化によるハード面の強化が進んでいるが、それを利用する全教職員の理解・スキル習得に時間を要してしまう。
- ・チャットやオンライン・クラスルーム等便利なツールが増え、いつでもどこでも簡単に業務ができるようになった分、時間の制限なく実施できるため、ワークバランスの見直しと取捨選択が必要である。また、本来大切にしないといけない「人と人との繋がり」が希薄になってしまう恐れがある。

② 今後の改善方策

- ・新入教職員を始め、年に3回実施している全体会議の場で、学ぶ機会を設けていく。
- ・伝統校である故に、取捨選択に時間がかかる。全教職員が“変化を歓迎できる”よう日々の業務から意識改革が必要である。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・LINE ではないがセキュリティが高く、千歳市の中で使用している個人とのやりとりができるものを使用している。対面もちろん必要なので、シミュレーションコンテストなどもうまく利用しながらだと良いのではないかと。（高田委員：医療秘書科、診療情報管理士科について）
- ・取捨選択だが、現場でも今まで当たり前だったことが変わりつつある（ノーネクタイになるなど）。手間もコストもかかる上、患者さんにとって必要な物なのか改めて検討した結果、強制ではなく任意となった。実習が再開できたため、病院の変化もキャッチしていければ変わるのではないかと。（高田委員：医療秘書科、診療情報管理士科について）

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・保育、介護分野においては産学連携の機会も増えているが、医療系学科がまだまだ不十分と感じる。評価をいただけるタイミングが現場実習や行事と限られている。
- ・最先端の情報や今必要とされているニーズを生徒へ伝える機会がまだまだ不足している。

② 今後の改善方策

- ・現場実習に行く前の早い段階で“病院”で働くイメージをつけられるよう見学の機会を設けていきたい。また、授業内容によっては現場の方に教えて頂く等 授業展開の工夫を図る。
- ・カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方に授業内容を見ていただける環境は整っているため、意見をいただける関係構築に注力をしていく。
- ・実習以外でも現場に足を運ばせていただき、関連業界との繋がりを強化するとともにいただいた情報を、全教員へ共有し生徒指導役立てていく。

③ 特記事項

年に 2 回学生に授業アンケートを実施し、課題が残る教職員には教科チーフが面談し、授業力向上のアドバイスの場を設けている。また、新入教職員には前期途中に面談を実施し、授業に関する不安を取り除く工夫を行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・実習については一貫教育だと思っている。教育と現場との繋がりを見せている。教えた人間が医療機関に実習して教えるという点で一貫性がある。実習では「これは学校でどう習った？」などの質問を多くしている。実際に学校で習ったことを質問できるような環境が病院側にもなければならない。ただ作業をさせるわけにはいかない。また、新卒等の先生方にも現場に来てもらい、知ってもらう機会があれば良いと思う。

(薄井委員：医療秘書科、診療情報管理士科について)

・現場にて肌で感じてもらうのが1番。受け入れる側の質によってかなり変わってくる。実習生が今後お客さんになる、宣伝の広報になるという視点がなく、ただ作業をさせ掃き出すという病院も少なからずある。実習の受け入れ担当者との意思疎通や、統一性は持たせた方が良い。病院のカラーがあるので、受け入れ側が多ければ取捨は出来るのではないかと個人的には思う。(濱田委員：医療秘書科、診療情報管理士科について)

・実習に行くと業界が嫌になって辞めるパターンはあると思う。25名卒業、就職者数23名、では2名はどのような原因の掘り下げが学校側でされているのかとは思いますが、この零れた学生は何がきっかけになったのかという分析は必要だと考える。(濱田委員：医療秘書科、診療情報管理士科、介護福祉科について)

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・就職率・検定取得率に関しては昨年度と比較して高くなっているため、引き続き教員の入れ替えがあっても安定した就職指導ができるよう基盤を作る必要がある。

・昨今、心身・精神不調の退学者が増えており、退学率の低減が最重要課題である。

・自宅での学習習慣の少ない生徒が多く、自発的な勉強方法指導と、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。

② 今後の改善方策

・定期的に職員会議にて就職指導について勉強会を実施する。

・1つのクラスに対して、複数人で担任、学科業務を行うようにしていく。生徒から担任がいつでも相談を受けられる環境作りをしていく。また、スクールカウンセラーを週1回学校に来ていただき、相談できる環境を提供に努める。

・精神的に弱い学生が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共育していく環境を作っていく。

・卒業生専用の公式LINE運用を行い、卒業後の把握や就職支援等を同窓会担当者よりアプローチをしていく。

・職業経験の無い担任メンバーに向けて勉強できる機会や資格取得の機会を設けて、授業と業界の理解をしていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・ここ数年、介護福祉士の人材不足は続いており、これからも続いていくのは間違いない。札幌市内で200人程度しか卒業生がいないため5000人程度は足りない状況。教育、就職面で協力は不可欠。高校へ行き、経済的な理由で進学が出来ないという家庭があれば、体験をしてもらい興味を持ってもらう。学生に対して就学資金制度を作り、また専門学校等に入学したら合わせてタダになる。地方の社会福祉法人は当たり前のようにやっている。お金がなくて進学できないという状況をなくさなければならない。そういった努力は全道展開している。福祉に興味を持ってもらうのは中学生から対象に始めないといけないと感じている。

(笹田委員：介護福祉科について)

・今まで発達障害の診断を受けた職員が5名いる。仕事ぶりを見て違和感を覚え、保護者と話したところ障害を持っているかもしれないと伝えと、そんな風に思ったことはないと言われた。どうして早いうちに診断がつかなかったのか。わかっていれば適用した仕事を配置できる。診断がついているからと言って就職が出来ないわけではない。業界的には人材不足なので、学校に在籍しているうちに診断がついていればありがたい。(笹田委員：介護福祉科について)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

・在校生に対しての支援体制は整備されているが、卒業生や中途退学者への支援は不十分である。
・就職をゴールと設定している状況が見受けられる。あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。また卒業後の相談に関してもできるように、開かれた学校作りが必要である。

② 今後の改善方策

・卒業生との繋がりを強化していくために、同窓会 LINK の活用を強化するとともに、ホームページの認知拡大と卒業生対応窓口の設置がポイントとなる。(4)に記載した通り、卒業生公式LINEを運用する等再就職支援の仕組み

づくりを行う。

・保護者との信頼関係を築き上げるために、年度初めにオンラインにて担任が保護者会を実施し、クラス運営方針等を伝え、改めて社会人育成の場としての指導にご理解いただき、保護者からも連絡をいただきやすい状況を作る。また、退学防止のために必要な学生に関しては、早い段階で三者面談を実施する。

・学びの多い課外活動は、学科を超えたボランティアサークルを立ち上げ、誰もが活動できる機会を設け、積極的に支援していく。

③ 特記事項

・アプリ上で就職情報を取得できるようにしている。全国の姉妹校求人も含めて、どこにいても確認できる環境を整えた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・(4)でも述べたように、医療事務課は対人関係がほとんどなので、ハードルは高いと思うが精神不調の学生については十分に理解してもらい病院へ受診してもらう等の何らかの対策は必要であると思う。そのために、問題が起きた後のコミュニケーションではなく、都度取れるようにする必要がある。(濱田委員：医療秘書科、診療情報管理士科について)

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・防災に対して生徒の意識を向上させていく必要がある。

・校内の教室環境が整備されつつあるので、それを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある。

② 今後の改善方策

・4月下旬に避難訓練を実施。

・コロナ禍を経験し、感染予防や健康での重要性をHR内で伝えていく。

・FREEWi-Fi、各教室のプロジェクター設置等環境が整ったため、実践的な授業展開ができるようシラバスやカリキュラムを見直していく。(電子教材等)

③ 学校関係者評価委員会コメント

・介護の場合は対面で実習ができるようになったが、その他にも様々な施設で年間通してボランティアの学生として参加してもらい、業界理解も含め効果があったように感じる。また就職説明会は更に多く実施した方がよい。施設側も力を入れるので、いい機会になるのではないかと。様々な法人なども参加できる機会を設けたらいいと考える。(笹田委員：介護福祉科について)

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現場は人材不足を変わず感じているため、引き続き現場と学校と連携しながら、業界を支える人材の確保に努めたい。（笹田委員：介護福祉科について）

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

他部署による教務監査を毎年実施し、保管義務のある資料管理の順守に努める

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

・介護や保育の分野では、ボランティア等で地域貢献しているが、医療系の学科は不十分である。

② 今後の改善方策

・学科に捉われず、ボランティア活動を実施していく。また、施設や医療機関から情報共有をして頂き、生徒へ情報を開示していく。

・姉妹校と連携して、SDGs 活動を実施予定。

③ 特記事項

・介護福祉科は委託訓練生の受け入れを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・対面で学校関係者評価委員会が実施できるのが何より良い機会となった。現場と学校の連携が非常に大切になってくるため、話しやすい空間で意見や考えを伝える場面は非常に大切である。（高田委員）

・18 歳人口が減っている中で、学園として安定な運営ができていることが素晴らしい。（薄井委員）